

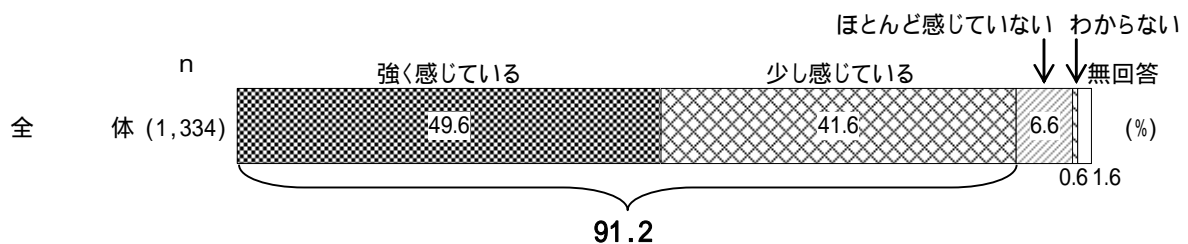
6 防災に関する取り組みについて

(1) 大地震や風水害への不安

『感じている（計）』が9割を超える

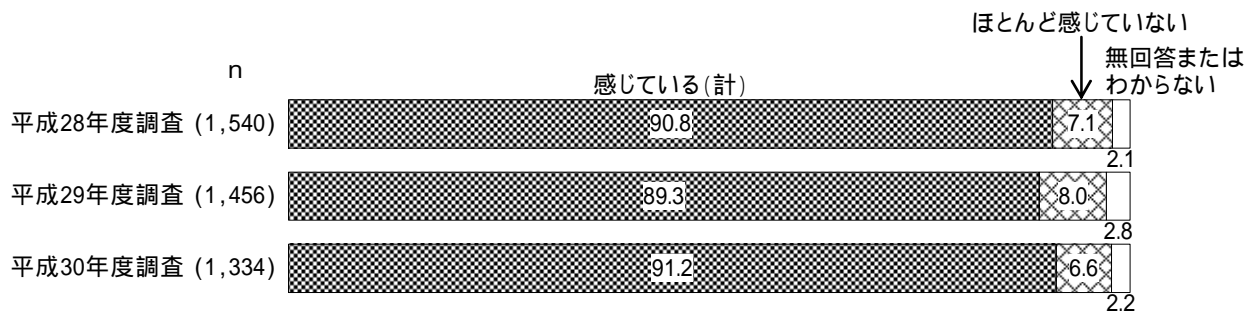
問32 平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、千葉県内でも震度6弱を記録し、大きな被害が出ました。また、県外では平成28年熊本地震（震度7が2回発生）や、記録的な大雨や台風により浸水害や土砂災害なども発生しております。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。（は1つ）

<図表6-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」（49.6%）と「少し感じている」（41.6%）を合わせた『感じている（計）』（91.2%）が9割を超えて高くなっている。一方、「ほとんど感じていない」（6.6%）は1割未満となっている。（図表6-1）

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

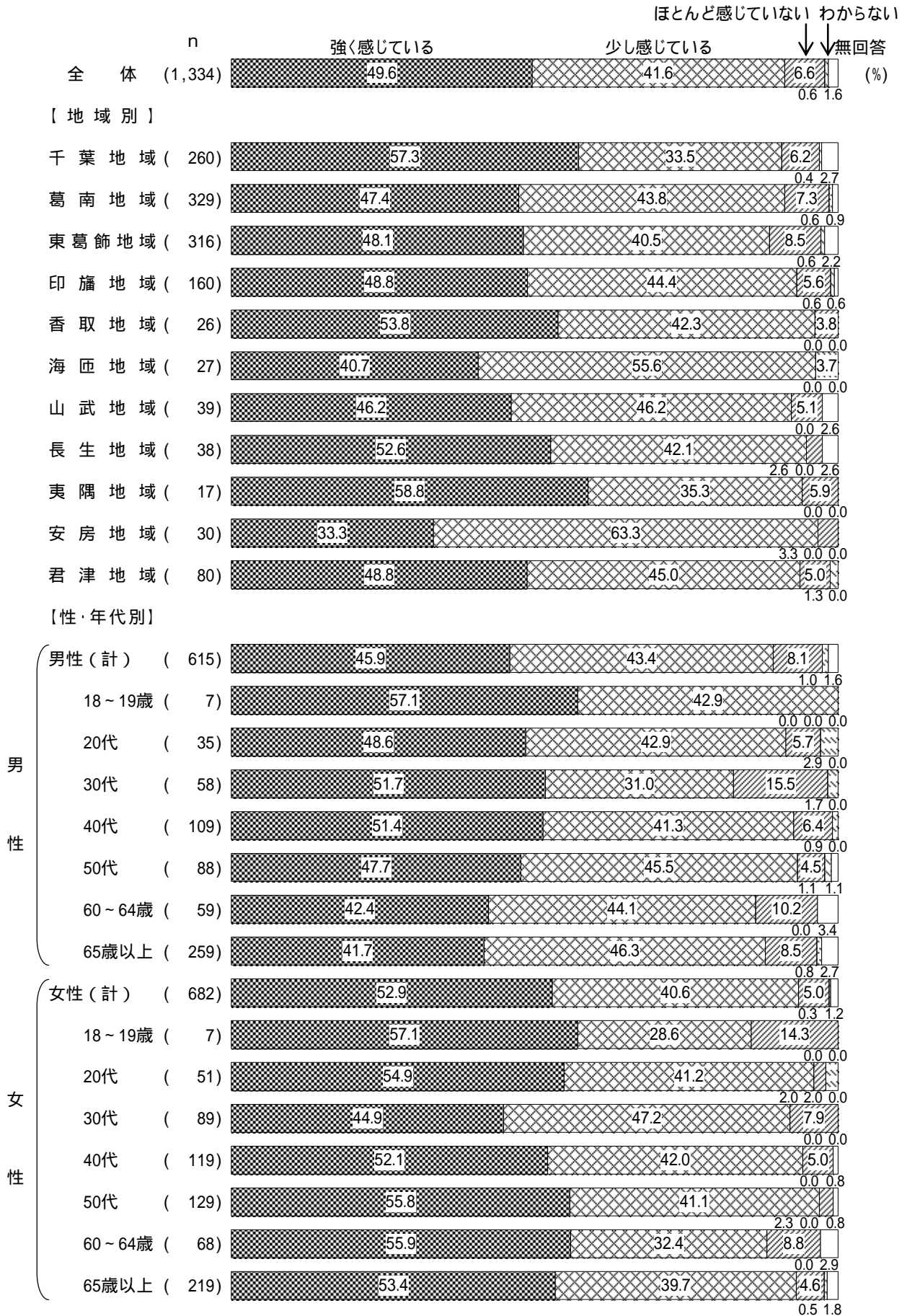
地域別にみると、「強く感じている」は“千葉地域”（57.3%）が約6割で高くなっている。

（図表6-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている（計）』は女性の50代（96.9%）が9割台半ばで高くなっている。（図表6-2）

<図表6 - 2>大地震や風水害への不安 / 地域別、性・年代別

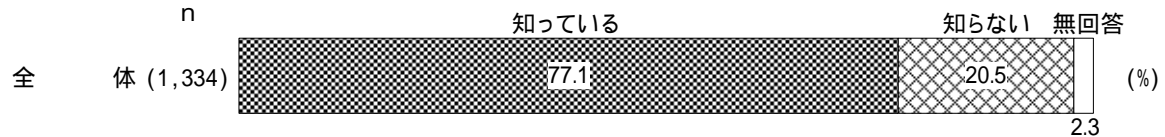


（２）「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

「知っている」が約8割

問33 市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。（は1つ）

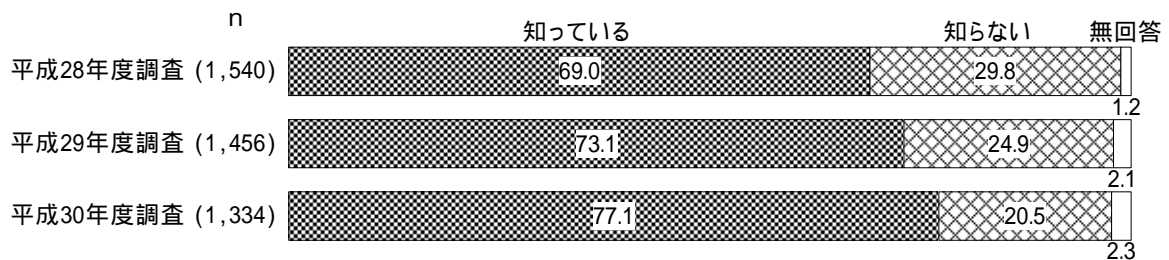
<図表6-3> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いを知っているか聞いたところ、「知っている」(77.1%)が約8割で高くなっている。

一方、「知らない」(20.5%)は2割となっている。(図表6-3)

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“葛南地域”(27.7%)が約3割で高くなっている。

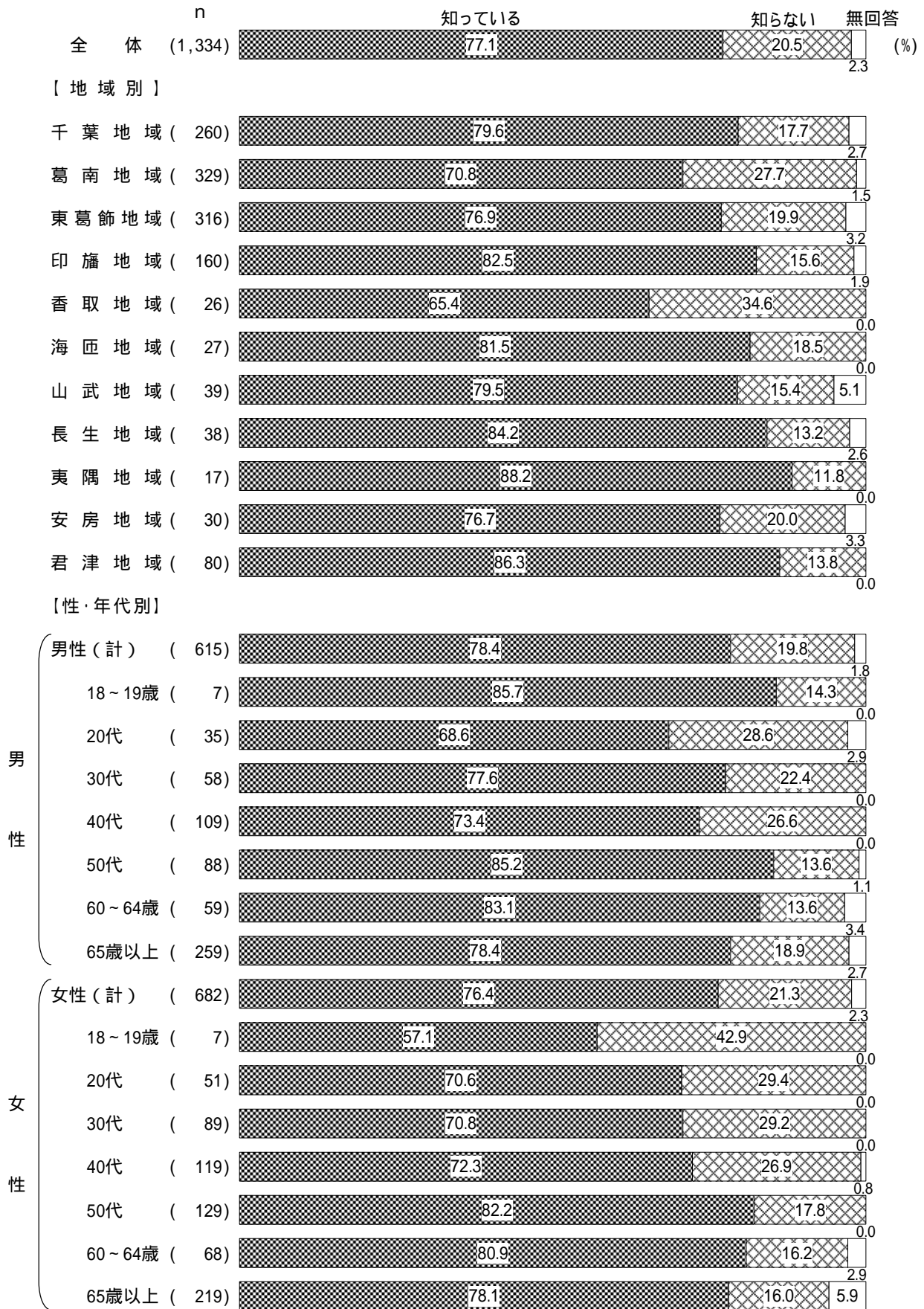
(図表6-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「知らない」は女性の30代(29.2%)が約3割で高くなっている。

(図表6-4)

<図表6 - 4> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

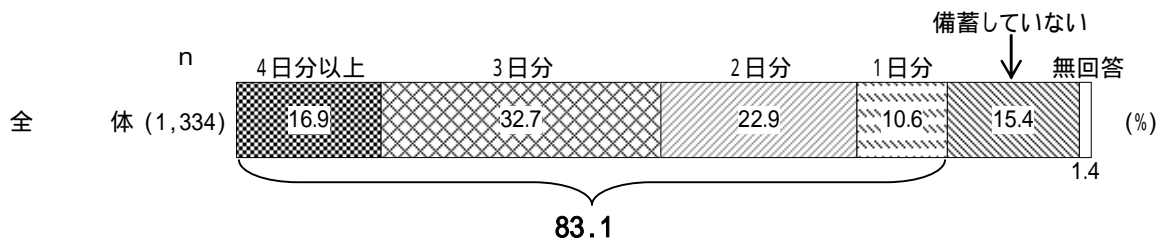


（3）飲料水や食料の備蓄状況

『備蓄している（計）』が8割を超える

問34 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。（は1つ）

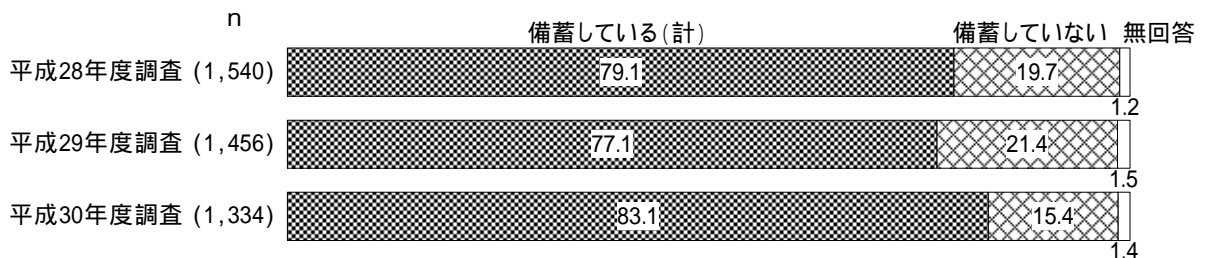
<図表6-5> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(32.7%)が3割を超え、「2日分」(22.9%)が2割を超え、「4日分以上」(16.9%)が1割台半ば、「1日分」(10.6%)が1割となっており、この4つを合わせた『備蓄している（計）』(83.1%)が8割を超えて高くなっている。

一方、「備蓄していない」(15.4%)は1割台半ばとなっている。(図表6-5)

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「4日分以上」は“山武地域”(46.2%)が4割台半ばで高くなっている。

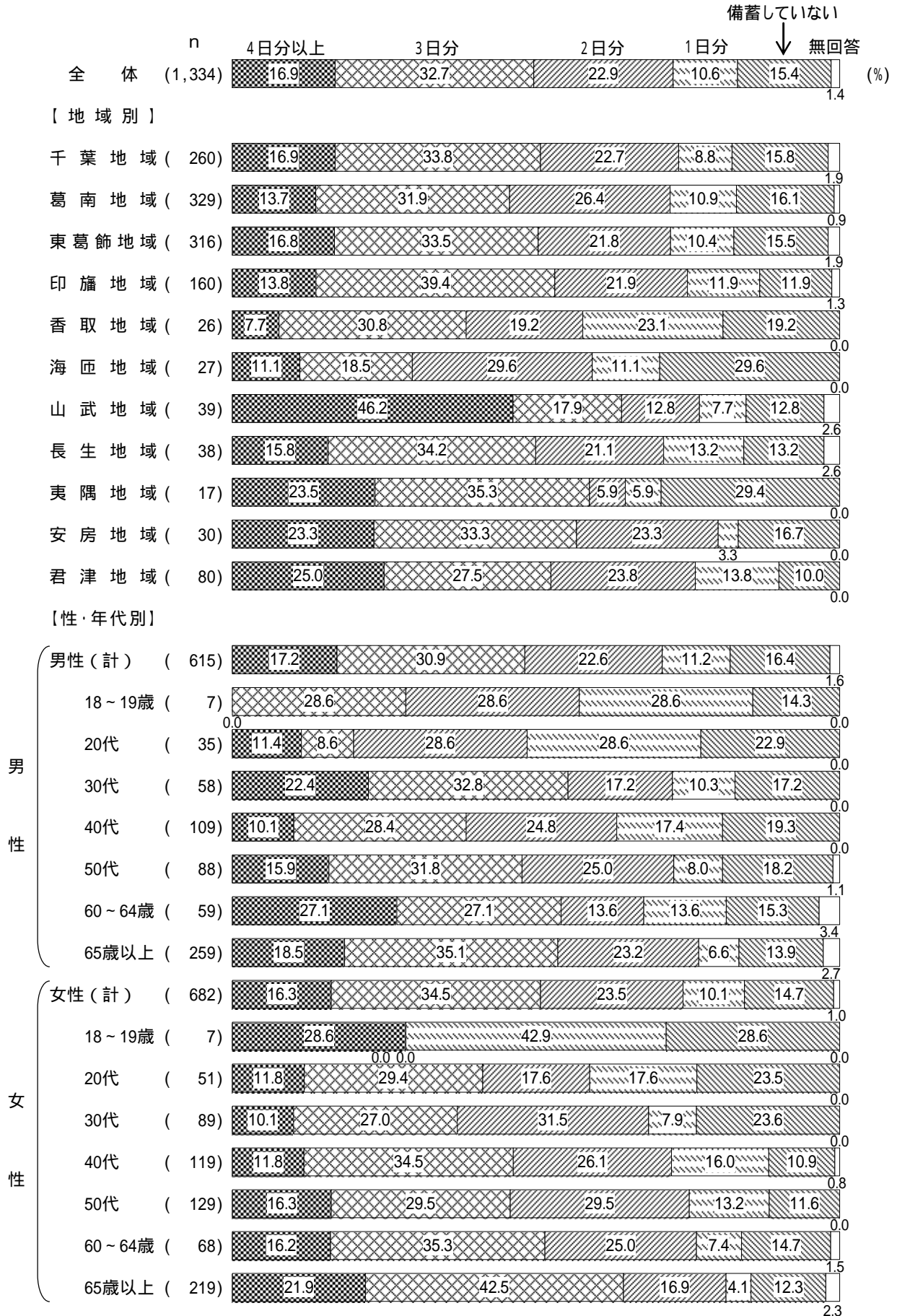
一方、「備蓄していない」は“海匝地域”(29.6%)が約3割で高くなっている。(図表6-6)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「4日分以上」は男性の60～64歳(27.1%)が約3割、女性の65歳以上(21.9%)が2割を超えて高くなっている。

一方、「備蓄していない」は女性の30代(23.6%)が2割台半ばで高くなっている。(図表6-6)

<図表6 - 6> 飲料水や食料の備蓄状況 / 地域別、性・年代別



（４）災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

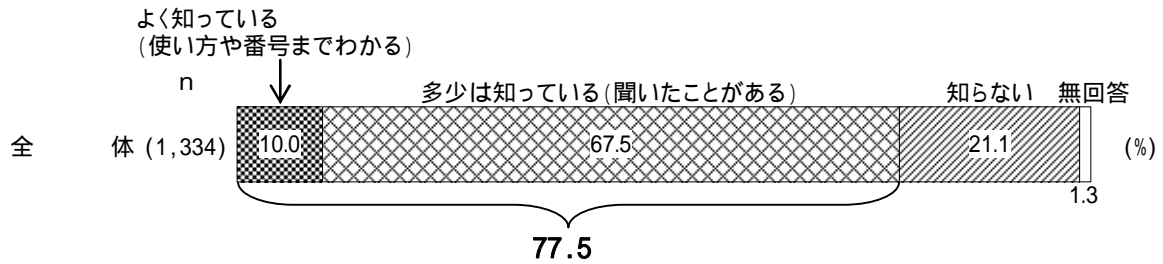
『知っている（計）』が約8割

問35 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなります。実際に東日本大震災でも、使用できなくなりました。

あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。

（ は1つ）

<図表6 - 7> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

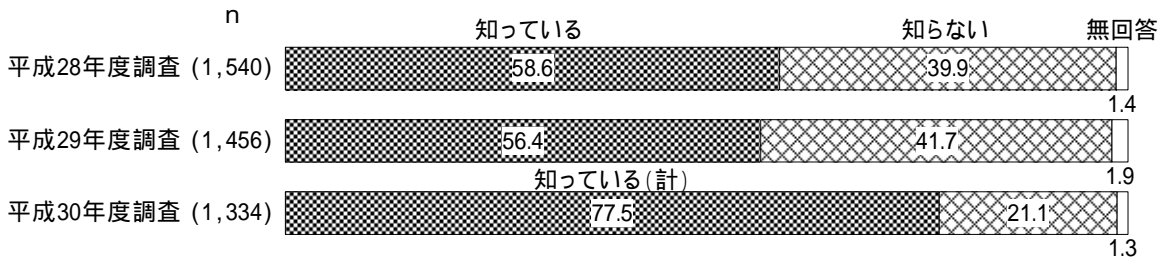


（ ）平成30年度調査から、選択肢「知っている」を「よく知っている（使い方や番号までわかる）」と、「多少は知っている（聞いたことがある）」に変更した。

災害伝言板・災害用伝言ダイヤルを知っているか聞いたところ、「よく知っている（使い方や番号までわかる）」（10.0％）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（67.5％）を合わせた『知っている（計）』（77.5％）が約8割で高くなっている。

一方、「知らない」（21.1％）は2割を超えている。（図表6 - 7）

〔参考〕平成28年度・平成29年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

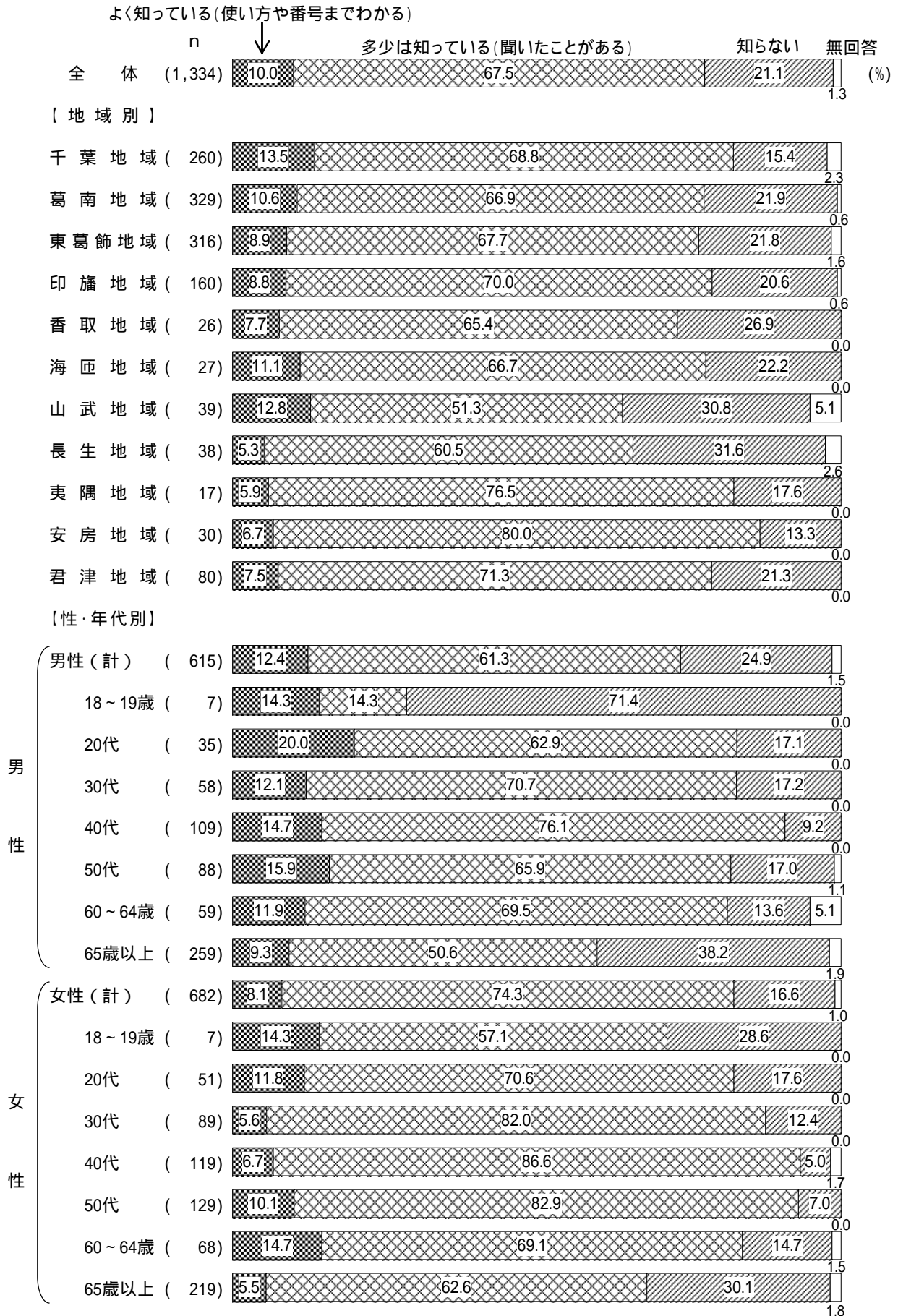
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表6 - 8）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は女性の40代（93.3％）と女性の50代（93.0％）が9割を超え、男性の40代（90.8％）が9割、女性の30代（87.6％）が約9割で高くなっている。

一方、「知らない」は男性の65歳以上（38.2％）が約4割、女性の65歳以上（30.1％）が3割で高くなっている。（図表6 - 8）

<図表6 - 8> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度 / 地域別、性・年代別

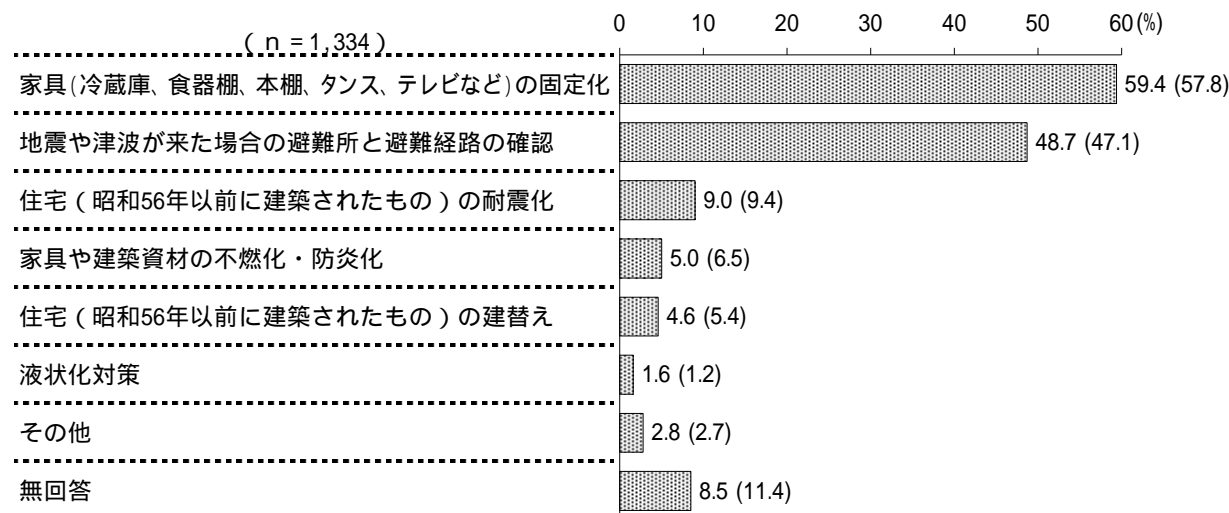


（5）地震の被害を防ぐための対策

「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が約6割

問36 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか（行う予定ですか）（はいくつでも）

<図表6 - 9> 地震の被害を防ぐための対策（複数回答）



注) () の数字は平成29年度の同様の項目による調査結果 n = 1,456

地震の被害を防ぐため、どのような対策を行っている（行う予定）か聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（59.4%）が約6割で最も高く、以下、「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」（48.7%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.0%）が続く。（図表6 - 9）

【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“印旛地域”（69.4%）が約7割で高くなっている。

「地震や津波が来た場合の避難所と避難経路の確認」は“安房地域”（70.0%）が7割、“長生地域”（65.8%）が6割台半ばで高くなっている。（図表6 - 10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」は男性の30代（17.2%）が約2割となっている。（図表6 - 10）

<図表6 - 10> 地震の被害を防ぐための対策（複数回答）/ 地域別、性・年代別

